

普及活動情勢報告（令和2年10月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

よりよい農業を目指して、GAPを指導



9月14日、農業改良普及課は、国際水準GAPに取り組んでいる馬路村のユズ農家8人に、GAPの指導を行いました。

確認書に基づき、聞き取り調査を行った後、倉庫での農薬や農機具等の保管状況、栽培圃場での作業の安全性などについて確認・指導を行いました。問題となるような状況は確認されませんでした。生産者からは「安全面から、肥料を高く積み上げるのはやめる」、「安全対策として、作業に行く前は、家族等に知らせる」といった意見が出されました。

農業改良普及課では今後もGAPの推進に取り組んでいきます。

「ぼたなす」の安定出荷を目指して



10月1日、室戸市吉良川町日南（ひなた）地区の伝統野菜「ぼたなす」生産者7人が、嶺北地域の雨よけ米ナス栽培の先進地事例調査をしました。

今年のぼたなすは育苗期の褐紋病の発生、大型カメムシ類やハスモンヨトウ、褐色腐敗病の多発、ハクビシンの食害など、様々な被害に見舞われました。

農業改良普及課室戸支所は、これらの解決方法の1つとして露地栽培から雨よけ栽培への変更を考え、この先進地事例調査を計画しました。はじめて見る雨よけ栽培方法に刺激を受け、帰りの車中で、さっそく次作から取り組むと決めた生産者もいました。

室戸支所は、今後も「日南・大平集落活動センターひなたぼっこ農林部会」の活動を支援します。

「農業体験ツアー in 安芸」を開催!!

～安芸市担い手支援協議会～



10月10日、安芸市担い手支援協議会主催の農業体験ツアーinあきが開催されました。

ツアーには県内外から4人が参加し、安芸市の農業や就農支援の紹介、法人経営体と新規就農者の施設訪問、ナスの収穫体験、研修受入農家等との意見交換を行いました。農業改良普及課は、ツアーの企画運営への支援を行いました。

参加者は、研修受入農家や新規就農者からの「作物中心の生活となるので、農作業と生活面を調整して対応することが重要」、「自己資金の準備も必要」等のアドバイスを熱心に聞いていました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、産地の担い手確保を支援します。

新規就農者現地研修会を開催しました



安芸市では就農希望者がスムーズに就農できるよう、実践経験をつむためのサポートハウスを整備しており、主にナスで就農する方が活用しています。一方で、就農後は生育判断や栽培管理面で戸惑う新規就農者も多くいます。

そこで、農業改良普及課は9月29日に、新たな取り組みとして、篤農家を講師に、サポートハウスを「学びの場」として現地研修会を開催し、新規就農者など17人が参加しました。

篤農家から樹勢管理のポイントについて指導があり、参加者同士で活発に意見交換が行われました。普及課からは目標を設定し栽培に取り組むことの重要性や病害対策等を指導しました。

普及課は、引き続き新規就農者相互の交流や先輩農業者から学ぶ機会を創り、新規就農者の目標達成を支援します。

さらなる発展 ～土佐あき新施設園芸システム勉強会～



10月9日に、JA高知県安芸集出荷場で「土佐あき新施設園芸システム勉強会」の解散総会が開催されました。

この勉強会は安芸地域で環境制御技術に取り組む先進的な生産者を中心に、地域の限界収量突破や所得向上などを目的に、平成25年に設立されました。農業改良普及課は、勉強会のメンバーとともに様々な試験を行い、日射比例灌水や炭酸ガス施用などの環境制御技術の効果的な活用方法を検討をして来ました。

総会の中で会長から、「これまでの取組で一定の成果を出すことができた。今回は、単なる解散ではなく、“発展的解散”である。会員の皆様には次世代への技術伝承も含め、今後も頑張っ

て欲しい。」との言葉がありました。
農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、安芸地域の農業のさらなる振興に向けて取り組みます。